

第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2016年6月11日（土）～12日（日）

@浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都立産業貿易センター台東館

| | |
|---|------------------------------|
| ワークショップ 35 | |
| 企画名 | もう一つの診断推論の話をしよう ―診断エラーの視点から― |
| 日時 | 2016年6月12日（日） 15:30～17:00 |
| 会場 | 第12会場（台東区民会館 9階 ホール(1)） |
| 企画責任者 | 高田俊彦（福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー） |
| 定員 | 35名 |
| 開催の目的・概要 | |
| 【開催の目的】 正確な診断のためには、正しい推論プロセスに加えて、いかに誤った推論プロセス、すなわち診断エラーを防ぐかが重要である。本ワークショップは、代表的な診断エラーについて知り、そのリスクをいかに察知し、防ぐかについて学習することを目的とする。 | |
| 【概要】 診断推論への注目が高まり、ケースカンファレンス、診断学に関する研究などをよく目にするようになりました。確かに、正確な診断のためには、正しい推論プロセスについて学ぶ必要がありますが、一方で誤った推論プロセス、すなわち診断エラーをどのように認識し、防ぐかという、もう一つの視点も必要ではないでしょうか。そこで、このワークショップでは次の2点を学習目標とします。1 代表的な診断エラー（各種ヒューリスティック、バイアス）について知る 2 診断エラーのリスクを察知し、防ぐことができる 日々の診療では、患者（例：稀な疾患）、医師（例：推論上のバイアス）、環境（例：疲労）に関連する多様な要因によって、正しい診断が困難な状況が少なからず存在します。そこでは、正しい推論プロセスだけでなく、起こりうる診断エラーを認知し、未然に防ぐことがより重要となってきます。さあ、もう一つの診断推論について、共に学びましょう！ | |